

四方山話



チカラーン日本人学校には、広いプールがあり、小学部低・中・高学年、中学部に分かれて水泳学習を行っています。先生方のきめ細やかな継続した指導により、水に親しむ子供、泳力を伸ばす子供がたくさんいます。

私は、プールサイドで安全確認と見守りをしているのですが、子供たちが楽しそうに泳ぐ姿をみると、小学校の頃にあった水泳大会が思い出されます。

背泳ぎの思い出

茂泉 和浩

私が小学生の頃、近隣の小学校五・六年生が集まつて水泳大会がありました。会場は輪番制で、私が五年生の時には、私が通う学校で大会が開催されることになつていきました。

選手は、各クラスから選出することになつており、練習会も数回計画されていました。

私が所属していたクラスでは、クロールと平泳ぎの選手は立候補ですぐ決まつたのですが背泳ぎの選手がなかなか決まらない状態でした。そこで、友達を推薦することになりました。○○君、○○君と友達が推薦されていました。当時の私は、大変消極的な子供だったので、心中では「自分の名前が呼ばれませんように。」と願うばかりでした。

ところが、いつも放課後に遊んでいた友達が何と私を推薦したのです。そして多数決へ。悲しいことに私は五〇m背泳ぎの選手になつてしましました。嬉しさは全くなく、「困った。」というのが素直な気持ちでした。なぜなら、私は背泳ぎの泳ぎ方を全く知らなかつたのです。水泳の授業でも背泳ぎは学習していませんでした。

それから毎日、私は学校帰りに本屋に寄り、背泳ぎについて立ち読みをすることにしました。キックやストロークの仕方、泳いでいるときの目線等、本を読んでイメージし、布団の上で練習しました。そして、大会前に二～三回行われた練習会で試しました。背泳ぎは、息継ぎがないのはいいのですが、まつすぐ泳いでいるのかどうか分からぬことと、腰が曲がつてしまふと沈んでしまう大変さがありました。そして泳法を身に付けないまま大会当日を迎えました。

「用意、バン。」号砲が鳴りました。無我夢中で手をかき足を動かしました。二五mにたどり着いたときには、足がつりそうになりました。後半の二五メートルは時間が数倍くらい掛かつたような気がしました。そしてようやくゴール。疲れてプールから上がることもできず、「みんなゴールしてプールから上がつたのかな。」と思いながらプールを見ると、まだ三人がもがきながら泳いでいました。背泳ぎの選手の多くは、私と同じでした。チカラーン日本人学校で水泳の授業を見ると、私もこのように教わりたかつたなと思ひます。今でも思い出す水泳大会。私にとつてはほろ苦い思い出です。